

山本五十六の誤算

1940年頃から1941年12月の大東亜戦争開戦までの話を山本五十六の誤算と題して、すべては結果論となりますが自分なりの見解で萩ライオンズクラブ遊史会の卓話を楽しませていただきます、この辺の歴史の詳しい人は面白くないかもしれませんがご了承下さい。さて、1940年ともなると満州での支那事変の泥沼化の問題を抱えた日本に対し世界情勢も経済封鎖等の難しい状況となってきました、そんな中日本は仮想敵国を設定して戦争指導を研究してゆきます。

陸軍を中心に軍、官、民のエリートたちを集めて戦争指導要綱を立ち上げ戦争準備を進めます、南進論、北進論(対ソ連)と考え出されますが石油等の輸出制限をされた日本が決定したのが南進論で南方(東南アジアの資源地帯)に進みイギリス、フランス、オランダの植民地の国々を解放させ石油を中心とした資源を得てイギリスとの戦争に勝利しインド洋を制圧し蒋介石に物資を支援する援蒋ルートを遮断し泥沼化の支那事変を終結させて大東亜共栄圏を構築すると言ったものです、その中にはアメリカ領のフィリピンがあるので遠くからアメリカがお出ましになった場合、南太平洋のどこかで艦隊決

戦で勝利し講和に持ち込む計画です。

当時政府上層部では誰一人としてアメリカ領土を直接日本が先に攻撃をしかけてのアメリカと戦争を考えるものはおりませんでした、国力に 12 倍以上の差があり産出資源では無限の差があるアメリカと戦争をしても勝てないことはわかっていたからです、その中にはアメリカハーバード大学留学、アメリカ駐在武官、海軍次官まで務めたアメリカ通の山本五十六も開戦反対派の筆頭としておりました。

第一次世界大戦を見ても国々が連合して総力戦となっています、局地的な戦闘の優劣で判定勝ちのような戦争は日露戦争まででした。ですから絶対にアメリカ本土に近いハワイ真珠湾の軍事基地を攻撃してはいけなかったのです、第一次世界大戦の戦勝国のアメリカとは言え約 12 万人の犠牲者を出しておりますので当時のアメリカ国民の半分は戦争反対思想でしたから日本から仕掛けなければすぐには参戦しなかったとみられておりました。

そして山本の唱えた真珠湾基地の壊滅で戦意を喪失させた後の早期講和も具体的な計画はなく、結果アメリカを怒らせただけとなってしまいます。世界の警察を目指すアメリカと勝って有利な講和はあ

りえません、満州事変を期に国連を脱退して孤立していた日本に対しどこの国がその仲介をしてくれるのでしょうか?これが山本の大きな誤算であると思います。

しかしそんな中ヨーロッパの元凶ドイツによって第二次世界大戦が勃発します、第一次世界大戦の敗戦国のドイツは戦勝国側に多額の賠償金を支払わされ国内の経済が困窮し、ヒットラーの出現により国民を洗脳し 1939 年 9 月ポーランドを侵攻するとイギリス、フランスが宣戦布告しますが勢いのあるドイツがフランスを陥落させます、ドイツの圧力に乗じて 1940 年 6 月日本も南方攻略の足掛かりとなるフランス領インドシナ(現在のベトナム)に進駐します。

するとアメリカも日本に対し石油の全面禁輸を敢行、さらには ABCD 包囲網によるブロック経済による経済制裁を科します。

遂には陸軍を中心にドイツ強しとみて 1940 年 9 月日独伊三国同盟を締結し、開戦へと向かってゆきます。

経済封鎖等のアメリカ側の措置に対し交渉で戦争を回避したい日本は 1941 年 4 月より 11 月まで日米交渉を繰り返しますが成立せず、11 月に提示されたアメリカ国務長官の覚書(ハルノート)を最後通牒とみなし 11 月 26 日の御前会議において開戦を決定します、しかし

このハルノートはアメリカ側は交渉の叩き台として提示しておりまだ譲歩次第では交渉の余地はあったのですが、日本側はあっさり開戦に踏み切ります。

ところで皆さんは当時アジアで日本のほかにもう一国だけ欧米の植民地となっていない国があるのをご存じでしょうか?そうですタイです、その理由はイギリス植民地インド、ビルマとフランス植民地ベトナムの真ん中に挟まれてイギリス、フランスが牽制し合っていた地理的幸運とあの昔に(江戸時代後期)中央集権制の近代的な国政態勢を取っており王室による貿易独占をせず自由貿易制を取り、なにより外交がたくみであったからだと言われております。

今回私が一番言いたいことは日本もタイに習ってもっとしっかり粘り強く外交に力を入れてほしかったことと、国政も陸軍と海軍は確執があり政治もそれらと一体化しておらずバラバラだったのではなかったかという事です、避けられない聖戦であったのかもしれませんが、もっとそのへんがしっかりしておれば300万人以上の犠牲者を出さずにすんだのではなかったかという事です。

